

## 冬本番を控え感染症流行も全国で「薬不足」が深刻化…政府の後発品奨励策が裏目に

2023/10/27 日刊ゲンダイ



いよいよ冬本番へ、新型コロナやインフルが流行中（c）日刊ゲンダイ

先週、熱っぽいので近所の医院にマスクを着用して行き、受付で「少し熱っぽい」と言ったら、待合室から外に出され「ここでお呼びするまで待っていてください」と言われた。検温したら36度6分だったが、院内に入れてもらえず、院外は日陰で寒いので、診察をキャンセル。別の医院に行き受付で「咳が出ま

す」と言うと待合室からレントゲン室に連れていかれ「ここでしばらくお待ちください」と。旧知のベテラン医師が喉を診察、「コロナ、インフルではありませんが、なんらかの感染症にかかっていますね」と言われた。

そして「解熱剤などを処方しますが、薬不足なので錠剤ではなく、粉末でどうでしょう」と言う。「なんでですか」と問うと、「日医工など複数の大手後発品メーカーの工場が操業を停止、全国的に薬不足なんです。政府の後発品奨励策が裏目に出ていますね」と。

特に後発品が深刻で、日本製薬団体連合会が2023年7月に実施したアンケート調査では、ジェネリック全品目の32.4%が出荷停止・限定出荷という結果が出ていた。

この問題の直接的な原因としては、20年に発覚した後発品メーカーの不正をきっかけに、21年以降複数社への業務停止命令が出されたことが挙げられる。それによる薬不足が2年以上続いている。

10月18日、武見厚生労働大臣は会見で、鎮咳薬、去痰薬の需給が逼迫しているため、9月末に初期からの長期処方控え、医師が必要と判断した患者へ最少日数での処方とするよう、協力要請などを行ったと話した。

また、さらなる緊急対応として、鎮咳薬や去痰薬のメーカー主要8社に、供給増加に向けたあらゆる手段による対応を要請。その結果、年内は他の医薬品の生産ラインからの緊急融通、メーカー在庫の放出などにより、9月末時点よりも1割以上供給が増える見通しとなったと述べた。

これから冬本番。どんどん寒くなっていく。体調を崩したら、会社を休んで医院に行く前に、ドラッグストアで市販薬を購入して対処するサラリーマンは大勢いよう。咳止め、去痰薬、解熱鎮痛剤などの製薬会社に注目が集まろう。